

# シニアのリカレント教育についての一考察

## —シニア学生を対象にした調査結果から—

氏 名 芳賀真理子

指導教員 松永 裕己

### 要旨

高齢化の進行が急速に進むわが国では、同時に少子化もすすみ、少子高齢化時代がこれからも続くと推察される。医療の進歩や健康に対する意識向上、生活環境の発展が進んだ現代は、長寿社会に突入している。長寿社会で懸念されるのは、金銭的なこと、健康のこと、そして自身が社会の中で価値観を創出できるか、つまり、生きがいをもって健康で安泰に生活していけるか、を多くのシニア層が問題視しているところではないだろうか。また社会全体で見れば、高齢化の進展と生産年齢人口の減少の中で、シニアの就労に期待が集まっている。その中で、「リカレント教育」が注目されている。

本研究では、リカレント教育を中心にシニア世代の学び直しについて検討した。

第1章では、社会の変化による人生設計が、今までの3ステージ人生からマルチスタイルに変容した背景や、長寿社会におけるシニアの就労の現状について考察した。第2章では生涯学習の歴史やリカレント教育の現状や今後の展開、海外のリカレント教育について、先行文献を通じ整理した。第3章では北九州市でリカレント教育を開講している「i-Design コミュニティカレッジ」及び「夢追塾」のシニア学生へのアンケート調査を行い、受講生のニーズや学びの成果、課題などを明らかにした。

アンケートでは、仕事に必要な基礎的な知識・技術・知見などを得ることが出来たか？の問いに対して過半数が得られたと回答している。一方、地域や社会に対する関心は高まったか？という問いに対して、70%以上が高まったと回答している。リカレント教育が、仕事という狭い意味のキャリアだけでなく、地域や社会における役割という広い意味でのキャリア形成に役立っていることが判明した。一方でリカレント教育に関する情報発信や職場の支援などについては不十分であると認識されている。

最後に、これらの考察をもとに現在のリカレント教育の課題を整理し、リカレント教育のいっそうの拡大のための提言を行った。